

新編讀本

稻垣千穎撰

一

大日本教育會西館

四	二
五册	三架
號	五函

178
3
60

K110.81
54a
1

K110.82

54a

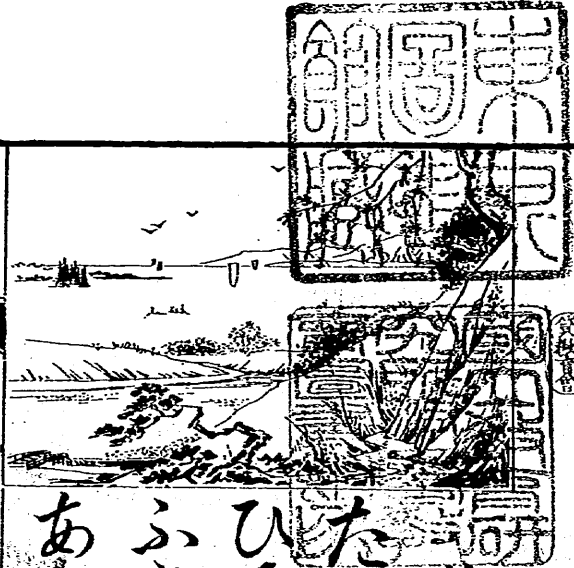
明治二十年六月一日 白濁堂發行

新編讀本卷之一

稻垣千穎 撰

第一 形狀言

たかき山。	ひくま谷。
ひろき海。	せばき川。
ふとま木。	ほろま枝。
あかま花。	あをま葉。



稻垣千穎撰

卷壹

新編讀本

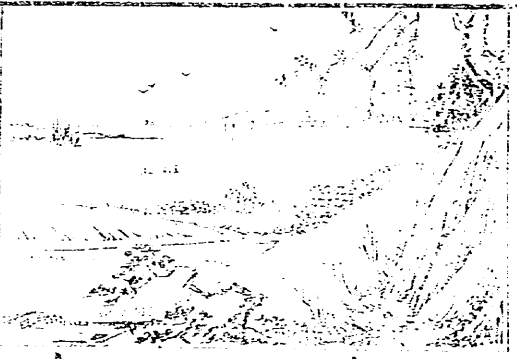
文學社刊行

新編讀本卷之一

稻垣千穎 撰

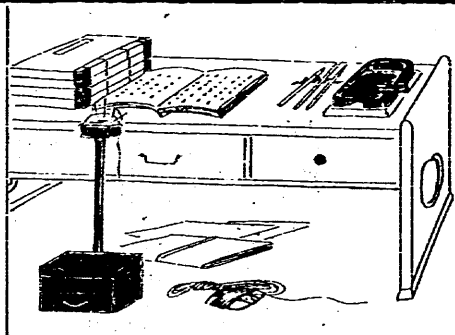
第一 形狀言

たかき山	ひくき谷
ひろき海	せばき川
ふとき木	ほろき枝
あかき花	あをき葉



第一 形狀言

山。谷。海。川。水。枝。花。葉。

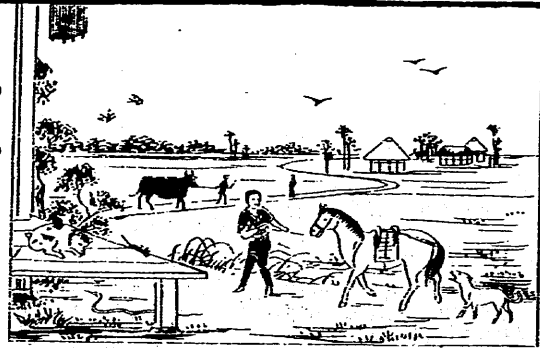


第二回

墨くろし。紙しろし。
硯おもしろし。筆かろし。
机ねほきし。本ちひまし。
糸ながし。針みがかし。

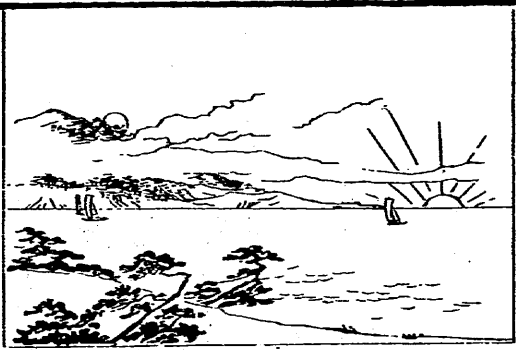
墨。紙。硯。筆。机。本。糸。針。

第三 作用言



虫。蛇。蝶。鳥。鼠。猫。馬。牛。犬。人。

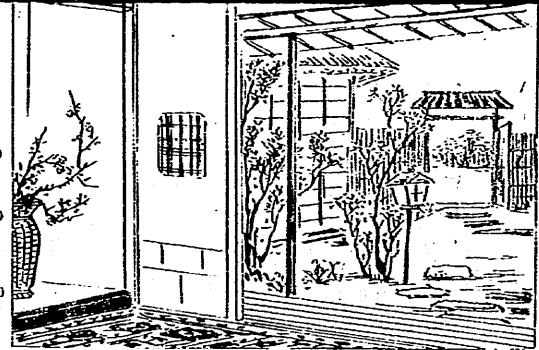
なく虫。はふ蛇。
まふ蝶。とぶ鳥。
はいる鼠。ねむる猫。
くる馬。かへる牛。
ほゆる犬。あゆむ人。



第四 同

月。日。空。風。雨。雷。雲。霧。霜。雪。

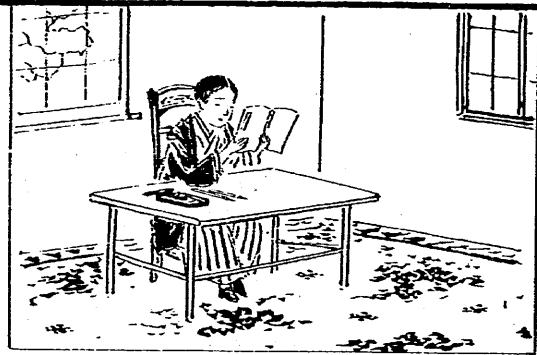
月	日	空	風	雨	雷	雲	霧	霜	雪
いる。	いづ。	くもる。	ふく。	ふる。	なる。	たこる。	たつ。	たく。	ふる。



第五の

草。梅。桃。庭。門。床。縁。窓。家。

草	梅	桃	庭	門	床	縁	窓	家
の葉。	のみ。	の花。	のうち。	のりと。	のうへ。	のした。	のまへ。	のうら。



第六を

衣。袴。羽織。履。字。畫。筭。

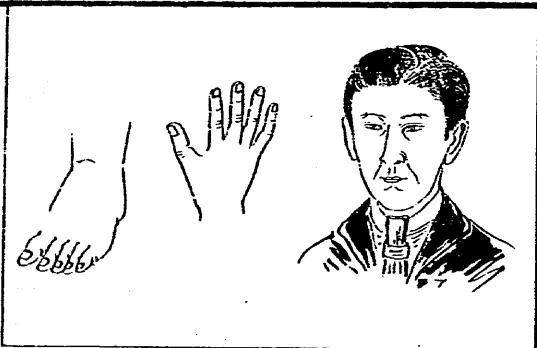
衣をきる。袴をはく。
 羽織をきる。履をはく。
 墨をする。筆をとる。
 字をかく。畫をうつす。
 本をよむ。筭をならぶ。



頸。尾。角。爪。額。色。身。

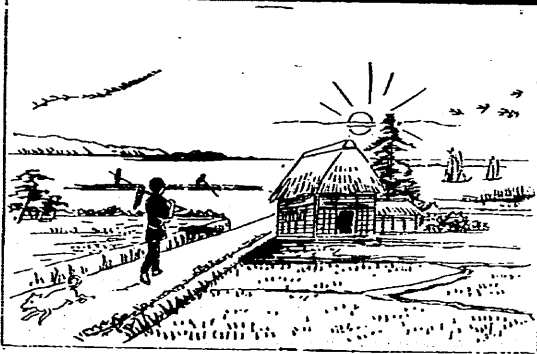
第七は

頸はふと。尾はほろ
 し。角はまるし。爪
 はあつし。色はくろ
 し。額はひろし。身
 はこ江たり。



體首有面眼手足指

第八に
 體にかうべあり。首
 よたも有り。面ふめ
 有り。眼にたまあり。
 手足にゆび有り。指
 につめ有り。



東西南南北舟上筏下

第九へ

人東へゆく。犬西へ
 はいる。つばめ南へ
 ゆく。がん北へあへ
 る。舟上へのぼる。
 筏下へとくだる。



見聞往返働入出進退

第十て
 見て志る。聞きてた
 のしむ。往きて返る。
 働きてやすむ。上り
 て下る。入りて出づ。
 進みて退ぞく。



羊。豕。烏。鳶。稻。麥。豆。瓜。

第十一と

羊豕とあるふ。烏鳶
 とあらそぬ。人犬と
 たまむる。稻と麥と
 をまく。豆と瓜と残
 法くる。



父。母。尊。兄。姉。大。弟。妹。小。僕。婢。心。姿。

父も尊く。母も尊し。
 兄も大く。姉も大し。
 弟も小く。妹も小し。
 僕もよく。婢もよく。
 心もよく。姿もよくし。

第十二も

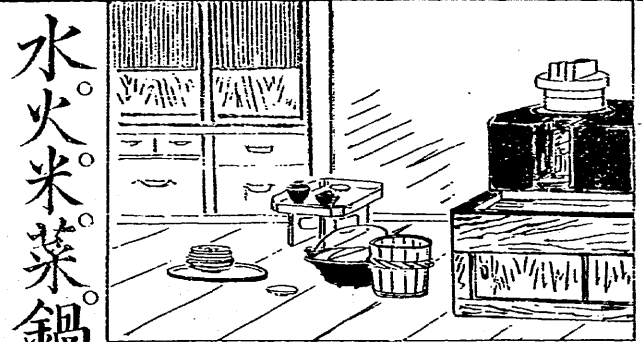


夜。明。雞。鳴。起。開。客。來。

夜。以。ま。た。明。け。ず。
 雞。い。ま。も。鳴。か。ば。
 人。以。ま。た。起。き。ず。
 門。い。ま。も。開。か。ば。
 客。以。ま。た。來。ら。ず。

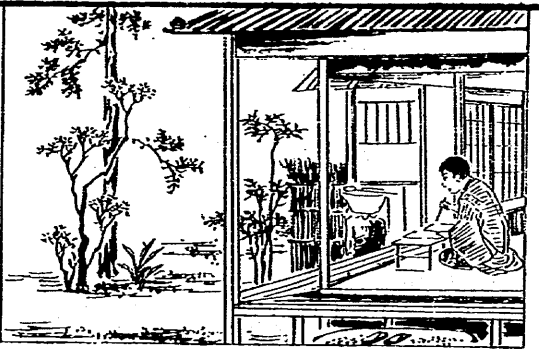
第十三 未來

第十四 現在



水。火。米。菜。鍋。洗。釜。膳。盆。拭。椀。皿。
 水をくむ。火をたく。
 米を洗ふ。菜を切る。
 鍋を洗ひ。釜をみがく。
 膳をきよめ。盆を拭ふ。
 椀をならべ。皿をたたく。

第十五 過去



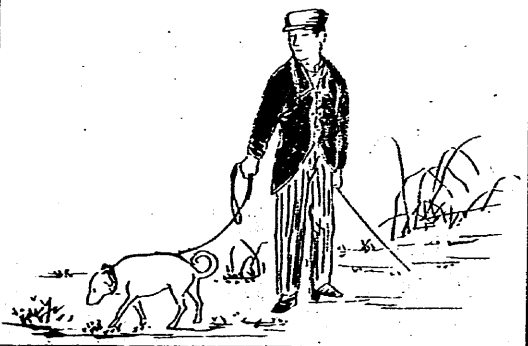
見。物。聞。き。事。
 學。び。業。覺。え。藝。
 あ。ひ。人。遊。び。友。
 を。り。處。す。み。家。
 過。ぎ。日。い。に。年。
 物。事。學。業。覺。藝。遊。友。處。過。年。



第十六 命令

臣ハ君ニ忠ナレ。子
ハ親ニ孝ナキ。弟子
ハ師匠ヲたふとべ。
幼ハ長ヲウヤマヘ。
長い幼ヲあいせよ。

臣。君。忠。子。親。孝。弟子。師匠。幼。長。



第十七 代名

此の人ハ。彼ニ犬ヲつ
れたり。 彼は。其ノ尾
ヲ卷きて。此處彼處に
走リ。 此ハ其ノ綱ヲ
とりて。其處ふたてり。

此。彼。其。卷。此。處。彼。處。走。綱。其。處。

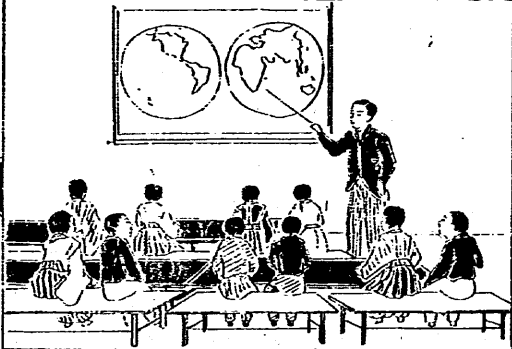
第十八 諸格混收下同



書物を讀みて。之を讀つはこと。或は志
里。 算術を習ひて。
物乃かずをさと里。
手習して。文字のかたち
或覺由。 此を志らざ
ま。人の用或かくあり。

書物。讀。算術。習。手習。文字。用。

第十九



かくかうは。大れらの
事を或し始る所にて。
或うい。此等の業
或さづくる人を里。
故小學校には。つ祿に

かよひまなび。教師をば敬ふべし。
所。此等。故。學校。教師。敬。

第二十

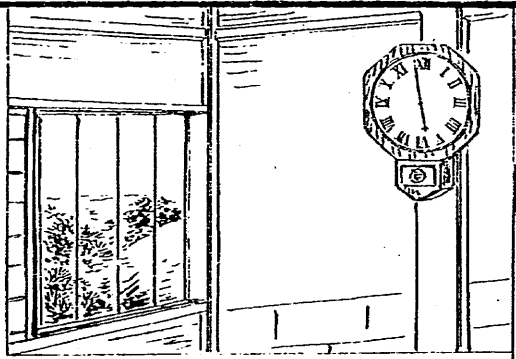
まは。なつ。あき。ゆめ。これを四季と
いふ。春はあたたか。夏はいつ
ま。秋をま。ず。く。冬は
さむい。暖なるやき



は花さき。暑き時は雷
なる。涼しき時は蟲な
き。寒き時は水こほる。
四季。春。夏。秋。冬。暖。暑。時。涼。寒。

第二十一

日の出で、よる入る満で。晝と
いひ。入りて。後を夜と云ふ。晝と



夜とは。おほむね十二時づゝなき。およそ時を計るふは。六十分或一分やゝ。六十分或一時と云。

晝後云計秒分。

第二十二



馬乃馳るこや速なるも。たこ多れ。いとほきにいたること能はぬ。

牛の歩乃遅きも。たゆまざれば。もやまにまさること有り。學問のみちは。急らばたゆまざる哉第一と云。

馳速能歩遲學問怠

第二十三

學問を怠るふは。易きより難きに
至る處。高き山ふ登るふは。か



ならぬ卑起ふえとと
里は下ぬ。遠きゆ大
路ふ行くには。必近き



足えやとと。出立つ
ごと。

易難至高登卑。遠行必近。足立。

第二十四

人は。身まこや。ならざれば。何事
もなす。たと能まぬ。身まこや
か。ふまると。は。養生を第一とす。



養生を習にはまづ飲
物食物を法々みほ
どよく運動を習ふ志
とこや無し。

何事。養生。飲物。食物。運動。無。

第二十五

危き阿ぢびをする事をかれ。あや



まれバ身小傷く。阿ぢ友に交
るこや勿れ。悪よなれ
易し。善き人に近は
き。あぢ死事に遠ざか
る。これ子供のみづ
知るべき事を習。

危傷。交。勿。惡。善。子供。知。

第二十六

働く人は身まこやのふして以て

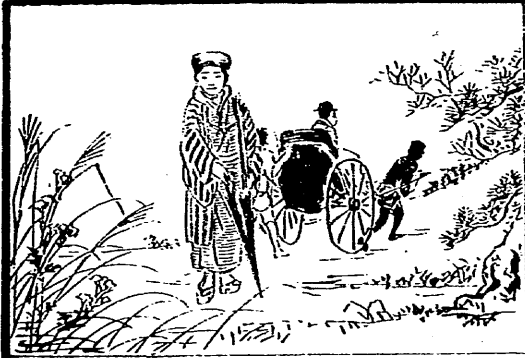
必富み。おこよる者

は體をこして家常

ふ貧し。勉強はと後

づの福をみるもとふ

し。怠は萬に禍の



もとなま。

富。常。貧。勉強。福。萬。禍。

第二十七

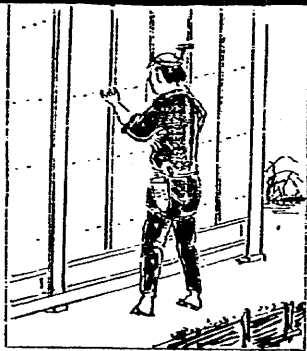
人ふいろくのすぎはひありて。

穀物。野菜を作る類こ

れを農業といひ。

家をたて器城作る等。





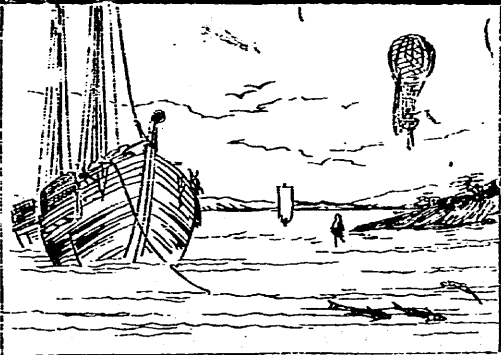
之を工業といひ。物を
 を阿きなるふ之は商業
 といひ。まづて之を

家業といふ

穀物。野菜。作類。農業。器等。之。工業。商業。家業

第二十八

鳥にも翼ありて、よく空を飛び、



魚は鰭有りて、よく水を泳がし。

人は足あるのみにて。

翼なく鰭なく。然

きども、人ふは智あり。

故に風船をつくる

て、よく空にのぼる。船

を造りて、能く水をわらふなり。

翼。飛。魚。鱗。泳。然。智。風。船。造。

第二十九

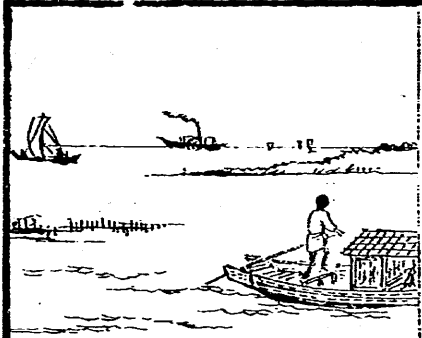
船よ。志。よ。う。き。せん。ほ。ま。ひ。せん。有

里。蒸。氣。船。は。蒸。氣。乃

力。ふ。と。ま。り。て。は。く。里

風。帆。船。も。帆。ふ。風。越。う

けて。行。く。ま。た。小。舟



小は。擢。或。は。櫓。を。以。て

や。る。者。あ。り。船。ふ。を。皆。其。の。後。小

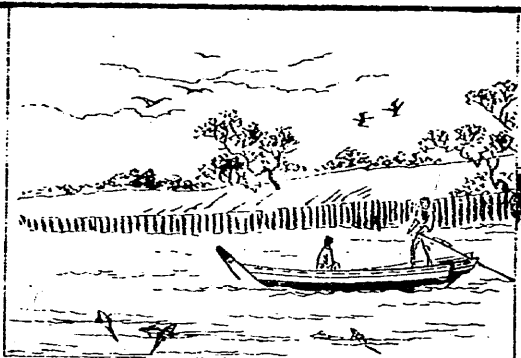
舵。あり。了。向。ふ。方。決。定。む。る。者。有。里。

蒸。氣。船。風。帆。船。小。舟。擢。或。櫓。皆。舵。向。定。

第三十

魚。鳥。乃。尾。は。な。ほ。船。乃。舵。也。こ。と。く。

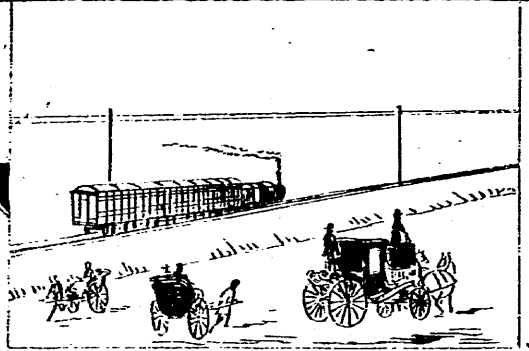
其。の。鱗。や。翼。と。は。猶。船。の。擢。と。櫓



との如し。空を飛び
水を行く者は必此等
の具なくしては自由
に前後左右ふゆくこ
も能まじ。

猶如具自由前後左右。

第三十一



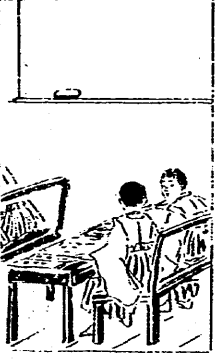
車の輪はなほ人足の如し。車
に志ようきくやばくや志ん里起
志や有り。蒸氣車は
蒸氣の力も多免ごら
し。馬車は馬ひき。
人力車は人ひく。蒸
氣車は甚もやく。人力

車は頗おたそく。

車。輪。蒸氣車。馬車。人力車。甚。頗。

第三十二

此は學校の圖と見えたる。此處



小字をならふ男子あり。彼處に裁縫をまなぶ女子有りて。皆勉強せり。此等



の人々は。後小皆よき人となりて。人ようやまはる可し。

字。圖。男子。裁縫。女子。可。

第三十三

此處小急がけるは。櫻乃花なり。

美しき事。言ふ可らげ。さくべて花



い。皆つぼみの成長
て。開けたる者あり。人
も幼き時を。よく勉
強まれば。成長して後
此の花は。如く美しき
人となりて。人小賞せらる可し。
櫻。美言。成長。賞。

第三十四



子となりて。親小孝なる可し。
養育のおん。海より
深し。弟子となりて
い。師を尊む可し。教
育の恩。山より高し。
親なくば。何を我が

身あらん。師無くば。何ぞ道を知らん。

養育深師。教育恩。何我道。

第三十五

朝もやく起きて。面洗ひ。口を嗽ぎ。まづ父母の機嫌をま。さて後食事をはらば。稽古道具をや。

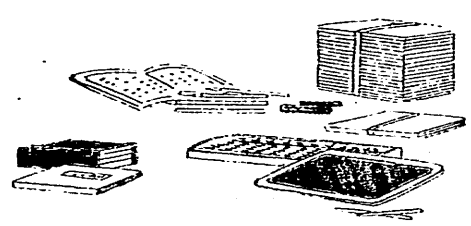


朝。嗽。機嫌。食事。稽古道具。復習。子弟。

第三十六

そろへて。學校へゆき。ほくみて教師のをしへをうけ。家よへれば復習をべし。こま子弟のつとめあり。

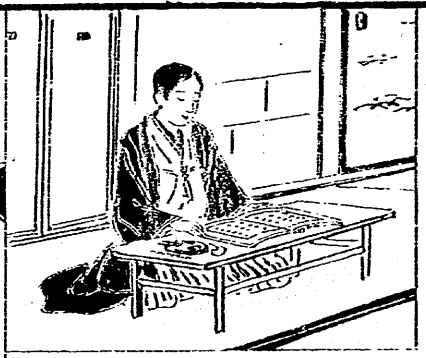
稽古道具は書物。墨。草紙。筆。手本。石盤。石筆。算盤等なり。これら此品



品はとくそ珍へねき
 了。とるみだす可らば
 常は大切ふして汚
 損ず。顧らば
 草紙。手本。石盤。石筆。算

盤品々大切汚損。

第三十七



少はるれば答へよ。問われずは言
 ふこと勿れ。知らぬ
 事は問ひ。疑はしきこ
 少いたいせ。ことを
 多き者は志を少く。心

さわかき者は藝つたを。體
を正しく。氣杖志は免て。一心に
學問をむげむべし。
答問疑多少正氣一心。

山谷海川木枝花葉墨紙硯筆机本絲針蟲蛇蝶鳥
鼠猫馬牛犬人月日空風雨雷雲霧霜雪草梅桃庭
門床縁窓家衣袴羽織履字畫筭頸尾角爪色額身

體首有面眼手足指東西南北舟上筏下見聞往返
働入進退羊豕烏鳶稻麥豆瓜父母尊兄姊大弟妹
小僕婢心姿夜明鷄鳴起開客來水火米菜鍋洗釜
膳盆拭椀皿物事學業覺藝遊友處過年臣君忠子
親孝弟子師匠幼長此彼其卷此處彼處走網其處
書物讀算術習手習文字用所此等故學校教師敬
四季春夏秋冬暖暑時涼寒晝後去計秒分馳
速能步遲學問怠易難至高登卑遠行必近足立
何事養生飲物食物運動無危傷交勿惡善子供知
富常貧勉強福萬禍穀物野菜作類農業器等之工業

K 12.8

商業家業翼飛魚鰭泳然智風船造蒸氣船風帆船小舟擢或櫓皆舵向定猶如具自由前後左右車輪蒸氣車馬車分車甚頗字圖男子裁縫女子可櫻美言成長賞養育深師教育恩何我道朝口噉機嫌食事替古道具復習子弟草紙手本石盤石筆算盤品々大切汚損答問疑多少正氣一心

卷之一

卷 菱潭書
狩野良信畫

新編讀本卷之一終

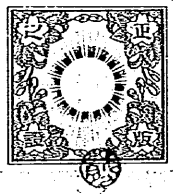
新編讀本卷一

178
3
60

明治十七年四月廿三日訂正再版御届

明治十七年九月廿六日版權免許
同十八年六月出版

定價金八錢



撰者

稻垣千



埼玉縣士族

東京下谷區仲徒町三丁目
廿一番地

出版

文學社

同本町四丁目十六番地